平成30年第1回玖珠町議会定例会会議録(第4号)

平成30年3月14日(水)

1. 議事日程第4号

平成30年3月14日(水) 午前10時開議

第1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(14名)

1 番	中 尾 拓	2 番	松 本 真由美
3 番	大 野 元 秀	4 番	小 幡 幸 範
5 番	松 下 善 法	6 番	中 川 英 則
7 番	廣 澤 俊 幸	8 番	石 井 龍 文
9 番	宿 利 忠 明	10番	秦 時 雄
11番	高 田 修 治	12番	藤 本 勝 美
13番	繁 田 弘 司	14番	河 野 博 文

欠席議員(なし)

職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局 長 山 本 五十六 議事係 長 山 本 恵一郎

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	宿 利 政 和	教 育 長	秋 吉 徹 成
総務課 長	村 木 賢 二	総務課法制室 長 兼 参 事	渡 邊 克 之

まちづくり 推 進 課 長	中 島 圭 史	まちづくり推進課 総合戦略室長	衛 藤 正
環境防災課長兼 基地対策室長	藤 原 八 栄	税 務 課 長	石 井 信 彦
福祉保健課長	本 松 豊 美	住 民 課 長	衛 藤 善 生
建設水道課長	梅 木 良 政	建設水道課長 水道室長	穴 井 智 志
農林業振興課長兼 農業委員会 事務局長	藤 林 民 也	農林業振興課 参 事	湯 浅 詩 朗
商工観光振興 課 長	秋 好 英 信	会計管理者兼 会 計 課 長	江 藤 幸 徳
人権同和啓発 センター所長	帆 足 浩 一	教育総務課長兼 新中学校開校 推 進 室 長	長 尾 孝 宏
学校教育課長	佐 藤 貴 司	社会教育課長兼 中央公民館長	瀧 石 裕 一
わらべの館館長 兼久留島武彦 記念館事務局長	吉 野 弥也子	監 査 委 員	河 野 好 美
総 務 課 行 政 係 長	和 田 育 男		

午前10時00分開議

○議 長（河野博文君） おはようございます。

開会に先立ちまして、傍聴される皆さんにお願いいたします。

会議中は静粛に願います。

なお、会議中の言論に対し、拍手や可否表明などの言動はかたく禁じられております。

また、会議の傍聴規則第7条並びに第9条の規定により、写真撮影や録音機器の使用は禁止されています。携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は電源をお切りになるか、マナーモードに設定されますよう御協力をお願いいたします。

ただいまの出席議員は14名です。

会議の定足数に達しております。

直ちに本会議を再開し、本日の会議を開きます。

ここで、宿利町長より発言の申し出がありましたので、これを許します。

宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 皆さん、おはようございます。

本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

議長のお許しをいただきましたので、おわびを申し上げたいというふうに思っております。

昨日の廣澤議員の一般質問の中で、地域マネージャー制度につきまして答弁をいたしました。その

中で、今議会で御承認をいただければという発言をいたしました。皆さんより大きな異論がなければという思いの中で、そのような発言に至ったわけでございます。皆様御存じのとおり、今議会に上程をしております一般会計当初予算及び各種議案に盛り込まれているものではございません。同時に、関係するコミュニティ組織や諸団体等の協議も現段階では行っているわけではございません。誤解を招くような答弁をいたしまして、大変申しわけございませんでした。おわびを申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

日程第1 一般質問

○議長（河野博文君） 日程第1、これより一般質問を行います。

会議の進行に御協力をお願いいたします。

最初の質問者は、13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） おはようございます。13番繁田です。

さきに通告いたしました4点について質問いたします。

議長へお願いですが、3番目の畜産振興についてを最後の4番目に振りかえさせていただき、質問に入らせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（河野博文君） はい。

○13番（繁田弘司君） けさ5時58分、私の師匠とされている方からメールが入っていました。多くいるメル友の一人からです。メールの中で、その師匠いわく、私には愛読書と思っている本が2冊あり、1冊は下村湖人の「次郎物語」、もう一冊は「春宵十話」で世界的な数学者で岡 潔の随筆だと言われていました。

その随筆の中の書き出しに「人の中心は情緒である」、その言葉は今も昔も新鮮ですと書かれていました。どんな道を歩むにしても、人間に大切なのは情緒であると、最近とみに失われつつある日本人の情緒を嘆き、警鐘を鳴らしたのが、その随筆だと言われています。

不徳のなすことばかりの私の人生、その日を生きるのが精いっぱいには、その師匠の言われる、我々は心より物、物より金へと価値観が変化する中で、日本的な味わいや風情、礼節も利他の心も失われた気がすると言われ、いかに生きるべきかを示唆してください。

宿利町長の理念について、きのう伺いました。難しいことはわかりませんが、このまちに生まれ、このまちに住んでよかったと思われるまちづくりを目指したい。この言葉は、玖珠町に住むより多くの町民が願っているところでしょう。この精神を肝に銘じ、これから4年間、まちづくりに励まれることを期待して、質問に入ります。

まず、1点目、個人情報保護に関する「過剰反応」についてお伺いいたします。

最近、とみに個人情報保護、つまりプライバシーについて、大変厳しい状況を感じています。

例えば、自治委員の名簿さえ簡単には配布されません。先日、自治委員会の皆様と会合が持たれま

した。皆様、自分の受け持ち地域の把握にも大変気を使いながら、自治委員の役割だと言われていました。

小さなまちの小さな自治区のよさは、向こう三軒両隣はおろか、受け持ち自治区の全てを把握されているところによさがあります。

ところが、最近、プライバシー過剰反応にし過ぎているのではないか。町が持っている情報の出される情報、出されない情報について、どのように捉えているか、お尋ねいたします。

○議長（河野博文君） 村木総務課長。

○総務課長（村木賢二君） おはようございます。繁田議員の御質問にお答えします。

御案内のとおり、平成17年に個人情報保護法が全面施行されましたが、当時、個人情報の活用より個人情報を保護するという側面が強調されまして、それまで提供されていた、先ほど議員が申されました自治委員の皆さんに配布する世帯の異動台帳等もあったんですが、個人の情報の有益な活用が行われない。先ほど申されたようなプライバシー保護という観点から、過剰反応という現象が発生して、全国的な社会問題となりました。

一方、玖珠町の各業務における個人情報の取り扱いは、個人の権利利益の保護、それと町政の適切かつ円滑な運用を図ることの2つを目的とした玖珠町個人情報保護条例のもと、運用されています。

第1の目的である個人の権利利益の保護は、自分の情報をコントロールする権利を含んだプライバシーの保護であって、第2の目的は、町政の適切かつ円滑な運用を図ることということで、個人情報を公益目的を実現するための行政活動の基礎資料として有用なものと捉え、個人の利益、権利利益の保護に当たり、町政の適切かつ円滑な運用は不必要に阻害されることがないように配慮するものであります。

玖珠町としましては、この2つの目的の調和を図りながら個人情報の適正な運用を行っているところでありまして、他の市町村と比べてみましても玖珠町が飛び抜けて過剰反応という状況ではないというふうに捉えております。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 町の権利利益の保護ということを中心に、過剰的な部分はやっていないというふうに今おっしゃられました。

私も基本的には、まず同意を得られた人だけ、そして同意を得られる範囲内で名簿は作成、目的は、自治委員の方が言うには、高齢者のひとり暮らし、2人暮らし、また身障者の方などの緊急時の対策用にどのように考えたらいいかということが一番大きな課題でした。

そのときに、これはだめ、あれはだめというのではなく、やっぱり自治委員の人と行政との信頼関係をもとに、提供される情報は、できるだけ多く提供する。そして、小さなまちのよさというのを生かしたまちづくりに活用していただきたいというふうに思っています。

ここに、個人情報保護に関するいわゆる「過剰反応」に係るQ&Aという冊子がありました。これは北海道の総務部の人事局法制文書課行政情報センターというのが平成23年に発行しております。

その中に、例えば、これは教育委員会に関係しますが、学校でのクラス名簿や緊急連絡網などを作成し、配布してもいいか。

それに対して学校はどういうふうに言われているかという、先ほど申しましたように、個人の理解が得られれば、きちっと提出してもらって、それを役立ててもいいんだと。ところが、最近はいいや、これは自分の個人情報だから披瀝してもらったら困るとかいうふうな父兄も人事局法制文書課行政情報センター出てきますが、その父兄の場合には、その部分を削除して、できるだけ連絡網がきちっと行き渡るような取り組みをすることも大切だというふうに書かれております。

だから、各データを持っている皆さんが自分のところで一回精査をしてもらいたい。自分のところの情報は、これとこれはどういうふうにしたら出されるのか、そういうふうな部分を一回きちっと検討をする。そういうふうな時代を迎えているのではないかというふうに思っております。

その件について、教育課長、どういふふうにお考えでしょうか。

○議長（河野博文君） 長尾教育総務課長。

○教育総務課長兼新中学校開校推進室長（長尾孝宏君） 繁田議員の御質問であります。今、例で出されました各学校でクラスごとに名簿等を連絡でつくっております。

基本的には同意を得た中で取り扱い注意という形で各家庭に配布されているものというふうに考えておりますが、基本的には、そういった形で御同意をいただいた上での配布というふうになるかと考えております。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） わかりました。

では、1つお尋ねしたいのは、自治会の会員名簿を作成して配布していいか。こういったお尋ねであります。これに関してはどういふふうに考えておりますか。

○議長（河野博文君） 中島まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（中島圭史君） お答えします。

個人のプライバシーの保護と自治委員の住民情報の把握という関係ということでございますが、個人情報の利用については、個人情報保護法で地方公共団体はその保有する個人情報の性質、当該情報を保有する目的等を勘案し、その保有する個人情報の適正な取り扱いがなされるよう、必要な措置を講ずることに努めなければならないとされております。

また、玖珠町の個人情報保護条例では、利用、提供に関する制限について、実施機関は保有個人情報取り扱い事務の目的以外に、保有個人情報を当該実施機関内部で利用し、または、実施機関以外の者に提供してはならないとされておまして、平成18年に情報公開、個人情報保護審査会の中で、名簿提供をしないという判断をしたところでございます。

一方、自治委員の仕事について、先ほど議員申されたと思いますが、玖珠町の自治委員設置及び自治区活動活性化条例の中では、自治区住民の把握をするということがうたわれておまして、自治委員さんから見ると、矛盾しているというふうに捉えられるかもしれませんが、閲覧については、でき

ないことはなくて、閲覧の範囲、目的等明らかにした上で、所定の手続を経て、住民課長が閲覧の可否を決定するというふうな手続になっております。

また、自治会自身が会員名簿を作成することは特に法律上の義務規定が課せられるものではないので、そういう方法もあるというふうに考えております。

以上です。

○議長（河野博文君） 13番 繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 例えば、自治区が自分の受け持ち区域をきちっと把握したいといったときには、今のように、課長のように、難しく言われますと、自治委員の人も、もうほんなら触れなくていいんじゃないかというふうに思って、ついつい、その的確な情報を把握することができないまま、その地域づくりが行われていく。いざ、災害時になって、どこに誰がいるかも把握できないまま、自治体が通り過ぎていってしまうということには大変残念なことでありますから、自治会で会員名簿を作成して配布してもいいでしょうかという質問に対して、答弁は、自治会は個人情報を取り扱い事業者には該当しないと、だから、先ほど言いましたように、同意を得られた人だけ、同意を得られた範囲内で名簿を作成して、その地域の中をきちっと把握することが、高齢者のひとり暮らし、2人暮らし、また、身障者、障害者などの緊急時の対策に十分生かされることでありますから、1回自治委員会に対して、この情報について、開示できるものはこういうふうなものがありますとか、そこら辺の指導を1回きちっとしたほうが、各自治委員の皆さんについても、納得がいて、よりよい地域づくりができるのではないかとこのように思いますから、その分について、今後、自治委員会に対して、この個人情報について、説明をする考え方はありますか。

○議長（河野博文君） 中島まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（中島圭史君） また、新年度になりましたら、そういう自治委員さんと集まって話す機会がございますので、そういう折には、説明をしたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（河野博文君） 13番 繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 先ほど言いましたように、確かに個人のプライバシーと言われますけれども、基本的には、個人の戸籍以外はきちっと情報を開示しているの部分が大多数であります。

だから、情報をできるだけ開示することが多くの町民にとってより有益な結果を出すのではないかと思いますから、早速新年度の自治委員会において、この個人情報の扱いについて、きちっと説明をしていただきたいというふうに思います。

次、2点目、焼却用ごみ袋の改良について。

現在の青色のごみ袋は少し薄過ぎて、破れやすいと、改良することができないかという方を最近何人かからお聞きをしております。

確かに、薄くてちょっと段ボールの紙が入っていると、すぐびっと破れて、皆さん、大変苦労しているようであります。

一度私は担当課にお聞きしたことがあります。なかなか簡単にはいかないと、そういうふうなことをお尋ねしましたが、確かに、よく水切りをして出し方を工夫するということが指摘されるのはわかった上で、ごみ袋の改良ができるかできないかという部分についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（河野博文君） 藤原環境防災課長。

○環境防災課長兼基地対策室長（藤原八栄君） おはようございます。

繁田議員の御質問にお答えをいたします。

現在、玖珠町が使用している可燃物用、俗に言う青色のごみ袋でございますが、まずはちょっとそれについて御説明をします。材質は、高密度ポリエチレンに分類され、引っ張り強度があり、フィルムが伸びにくく、薄くても強度があるなどの特徴がございます。厚さは、現在0.03ミリとなっております。ただ、先ほど議員が申しましたように、例えば、割りばしなど先のとがったものなどを入れると、袋が縦に裂けてしまうというようなデメリットも確かにございます。

次に、ちょっと可燃用ごみ袋の厚さに影響をいたしますので、玖珠清掃センターでの処理工程について御説明を申し上げます。

可燃ごみは、収集した後、玖珠清掃センターに搬入をされまして、センター内にあるごみピットに投入をされます。その後、ピット内のごみをクレーンのバケットでつかみ、ごみを焼却するための投入ホッパーへ投入をしますが、その投入の前に可燃袋を破り、中の内容物が出るようにクレーンのバケット内で何度も攪拌をする必要がございます。そういうことによって、生ごみや紙類等がよくまざり合うことで、安定かつ効率よく燃焼させるようにしております。

そのため、可燃物用ごみ袋は不燃物用のごみ袋と比べて破れやすくなっておるといふようなところでございます。

議員が改良をとの御質問でございます。ごみ袋が破れなくするためには、袋の強度を上げるとか厚くするなどの対策が考えられると思います。しかし、製造コストの上昇、それとあと、ごみ処理工程での袋を破る作業に時間を要して、作業効率の遅延化を招く懸念もございますが、ちょっと今後、材質や厚みを含めたコスト面、また作業効率面などをごみ袋製造メーカーや玖珠清掃センターなどと改良可能かどうかはちょっと協議をしてみたいというふうに考えております。

それとあわせて、先ほど議員も言われたように、ごみ袋が破れないような工夫について取り決めをしてもらうような啓発とか周知とかも同時に行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） よくわかりました。

可燃物ですから、中で生ごみと一緒に破って攪拌しなければいけないということを知りませんでした。ですから、破れないごみ袋にすると大変また手間暇がかかって大変だと思いますから、そこら辺については一回協議をしてもらいたいと思います。

と同時に、今、課長が言いましたように、生ごみのごみ袋が破れやすくなっているのは、こういっ

たことから破れやすくしているんですという啓発をぜひお願いしたい。そうすれば、出すとき皆さんが、なるほどそういうふうな事情でこのごみ袋は破れやすくなっているのかというのがわかれば、おのずから、私たちも出すときにもう一回注意をしながら気をつけて出していきたいというふうに思います。なぜそういうふうになっているかということをも私も理解していませんでしたし、きっと圧倒的に多くの町民が理解していないと思いますから、ぜひその分について啓発をし、大変難しいでしょうけれども、少し厚くすれば破れにくくなりますわね。でも、それがうまく両立できるような方法がないかということも一回ぜひ検討していただきたいというふうに思います。

続きまして、町のデータの作成について、地域別人口分布図、さらには森、玖珠、北山田、八幡の各地区別データの作成をする考えはないかということについてお尋ねしたいと思います。

これは、町にはたくさんの統計やデータがあります。先般、何が繁田さんは聞きたいんですかというふうに思われると思ひまして、私は担当課に行って、担当者に私が今思っている今回の質問について少し詳細にわたってお話をしました。それに対してどのような考え方を持っているかということについてお伺いしたいと思いますから、担当者の答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（河野博文君） 中島まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（中島圭史君） 繁田議員さんのおっしゃられておりました地区ごと、あるいは自治区ごとに、いろんなデータが一覧で見られれば、地区の現状とか今後の地域づくり、まちづくりの課題等が見えやすくなることとは思います。

ただ、データの種類によっては、月ごと、あるいは年ごとにデータが変動するものもございますので、今後、載せるデータの内容、あるいは種類、更新の頻度、提供する範囲や提供の方法、それからデータ加工、編集等に要する作業の日数とか、かかる費用、それらを検討して判断したいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 玖珠町人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、大変よくできています。たくさんの統計やデータがこの中に載っています。

同時に、暮らしのガイドくす、この中にも、どこに老人ホームが幾らあって、学校が幾らあってというふうなデータが載っています。さらに、それを要約したのが町勢要覧だと思います。この中にもさまざまな情報が入っております。

でも、たくさんの情報が幾ら入っていても、それをどこかの誰かが、その統計をもとにデータを分析して、玖珠町のために役に立つような情報をどうつくるかというのが、これからの私は一つの課題ではないかと思ひます。

ただ、私が例えば町長なら、まちづくりをやりながら、このまちの行政は、もう4地区が何年たっても切っても切れない縄張り意識というものがあります。それはそれで私は分析にはちゃんと適していると思ひますから、それも利用してもらいたい。

町長が物事を判断するとき、やっぱりデータや統計だと思うんです。4地区の町道がどのぐらいの長さがあるか。じゃ、その舗装率はどうなっているか。それをちゃんと建設課に行けば、ある程度、80%均等で4地区とも公平公正に行われています。でも、これはデータを見ないと本当に公平か公正かわからないわけですよ。

例えば人口に関しましては、4地区の中のどこの地域の人口が一番減っているのか、高齢化率が一番高いのか、出生率がどこが悪いかというのも4地区で分類してみるとよくわかるんです。だから、そういったデータを分析するためには、このデータの一元化というのをどこかでどの課かがやることによって、これからの10年、20年後の玖珠町のまちづくりに大変役に立つのではないかと。

10年後には、確実にこれから2,000人減少します。今1万6,000でしたら1万4,000になります。1万4,000人のときの、例えば職員数は一体何人が適正なのか。じゃ、病院の数は幾つぐらいがうちのまちにとって理想なのか、そういったことは地区別とかさまざまな形でデータを一回つくるんです。そして、職員のみんが共用できるようなデータを見ることによって、新たなまちづくりの指針を示すことができるのではないかとということをずっと私はこの間長いこと考えてきました。

何年前にもこういったことをやりませんかというふうな質問をしたことがあります。大変いいことですからやってみましょうと言って、次の質問がなかったら大体そこで終わってしまいます。

私はいつもデータをどういうふうに見るかといいますと、例えば玖珠地区の場合、玖珠地区の中には、大隈、山田西・東、山浦、塚脇とかいうふうな幾つかの大区がありますよね。その大区の中の大隈ぐらいまでは分析できるわけです。大隈の中には、鎗水に始まって中島まで8組あります。8組の中の舗装率が何%で、そこに公民館が幾つあって、人口が何人いて、その人口分布図も生産年齢人口から高齢者人口、児童、そこら辺まで分析することができるんです。じゃ、この地域にとって何が問題なのかとかいうのも、そのデータをもとに情報を分析することによって、この地域に必要なものがわかってきます。

もうやがて65歳以上の限界集落がもうあちこちで大変たくさん出てきています。その中で、限界集落が進んでいるのは、じゃ、森地区なのか、それとも北山田か、八幡か、玖珠か、そういったことを分析しながら、例えば次のまちづくりの予算を考える。そういうふうなためにも、データの作成というのは、私は極めて大事なものだというふうに思っております。

そういったことを念頭に置きながら、例えば統計やデータではあらかわせない病院の数は幾つあるのか。その4地区の中に学校は幾つあるのか。ガソリンスタンドは、コンビニは、公民館は、食堂、さらに公共施設といった項目を一つの地図の中に落としてみるわけです。普通、コンビニなんてそういうふうな統計データに載っていませんから、そういうことはできませんけれども、うちの町独自でそれをやってみることによって、どの地域に人が密集し、どの地域が過疎が進んで、どの地域が本当に生活に不便なのかというのも、そのデータを見ればわかってくるわけです。

そういったことについて取り組んでみようというふうな考えがあるかないかということについてお尋ねをいたします。

○議長（河野博文君） 中島まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（中島圭史君） 先ほども申しましたが、作業にかかる日数とか費用とか、そういうデータの加工・編集、それから先ほど言いましたデータというものの成果、そういうものをこちらで一応調査というか、検討して、そして判断させていただきたいと思います。今すぐに、やりますということは、ちょっと申し上げられません。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 今すぐやれと言っているわけじゃないんです。こういったデータをつくって、きちっと分析することによって、これから例えば10年後に人口がどうなっていくか。じゃ、仮に10年後に2,000人減少したときに、役場の職員の数の適正人数は一体何人だろうか。10年後といたしますと、もうあつという間にやってきますから、今の時代のスピードと違いますから、いつまでも未来永劫に交付税が来るかわからない。そういったときのまちづくりは一体どうしたらいいのだろうか。そういったもろもろのためにも今きちっとデータを整理することが大切なんです。それを前向きにやってみようという気持ちすらなくて、私が担当課に行って、こういうふうなことをやりたいから、こういうふうなことはできませんかと言ったにもかかわらず、課長の答弁としては大変残念なことでありますが、町長、あなたはどのようなふうに思いますか、この件について。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 繁田議員の御質問にお答えをいたします。

何事にもバックデータというのは当然必要なものでありますし、ましてや町の今後の方針等を策定する中で、より多くのデータがあるということは、これは一番望ましいことだというふうに思っています。そういう認識は持っております。

しかしながら、先ほど課長が答弁いたしましたように経費、それから時間、多大なものが予測されます。したがって、必要なものから随時そろえていく、そういう方向で作業は進めさせていただきたいと思っております。

データの重要性は十分認識をしております。よろしく申し上げます。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 担当課長も町長も、何というか、役場の職員と言ったらあれですけども、前向きな姿勢が見受けられませんね。じゃ、必要ではないというふうにお二人とも思っているわけですね。必要だけど経費がかかる。大した経費なんてかかりませんよ。私一人でも、地図に落としてやれば、これは何カ月かたてば、それなりのデータはきちっと把握できますよ。

そういうふうなことで、これから先10年20年後の玖珠町のまちづくりをやっているというふうな考えについては、大変残念きわまりないような答弁ですね。

例えば、これから先12年後、人口は1万6,000から1万3,000人に、先ほど言いましたように、じゃ、12年後に人口がこういうふうになったときに、この玖珠町に必要なものは一体何だろうか、職員数は何だろうか、議員数は何だろうか。本当にずっと未来永劫、国から交付税が来るのだろうか。これは

もう役場の若い職員が、自分たちの将来を案じて、そういった部分をきちっと把握・分析して、まちづくりをやるのが大切だと思います。ここにいる課長は、皆さん、あと四、五年すれば退職してしまいますから、自分のこととして余り受けとめられないかもしれないけれども、玖珠町は私は未来永劫続くと思っております。人口がどんなに減っても、このまちがなくなることはありません。そのためにも備えて、今ここでそういった部分をきちっと分析することがとても大切だというふうに思っているから、あえてこういうふうな質問をしましたけれども、課長も町長も似たり寄つたりの考え方で、こういうことでは本当に不安を覚えます。

しかし、やる、やらないは、あなたたちの勝手ですから、それはもうしょうがありませんけれども、本当に10年後にこのまちはどうなっているのか。じゃ、どんな時代が来るのか。今まで私たちは、農業社会、そして次に工業社会、情報社会という3つの社会を経験してきました。農業社会の画期的なものは、かんがい用水だったんです。かんがい用水が行き渡ったことによって、農業社会が定着した。工業社会は、もう蒸気機関の発展です、新しいエネルギー。情報社会は、結局、コンピュータの発展によってですね。

じゃ、次に時代は、どんな時代が来るんだろうか。この国は少子高齢化で重要な労働力はどんどん低下していく。一方、高齢者はふえてくる。そういったときに、次の時代は、最近とみに言われていますが、AIの社会ではないだろうか。AI社会の最も理想とするところは、人間の労働力にかわって、ある意味においてはロボットが労働力となって仕事をしてくれる。本当に理想とすれば、このAIが、人工知能が発展すれば、少子化になろうが、高齢化になろうが、何とかまちづくりが維持できるんじゃないとか、そういったことを常日ごろ考えながら私たち議員もまちづくりに励んでいるところであります。

ですから、経費は大してかからないから、ぜひどなたかの課がやってみようと思っております。もうやらないというのを私が今さらここで言う必要はありませんから、次の質問に入ります。

次は、通告してました畜産の振興について、お伺いいたします。

質問事項は3項目ほど提示しております。これに対して担当課長の答弁をお尋ねしたいと思います。

まず、有機センターの設立から現在の利用状況について、どうなっているかということについてであります。

○議長（河野博文君） 湯浅農林業振興課参事。

○農林業振興課参事（湯浅詩朗君） それでは、お答えをします。

玖珠町の有機センターは、平成11年に制定されました家畜排せつ物処理法が5年の猶予を経て平成16年から施行されるため、平成14年に酪農組合を主体としました堆肥処理施設建設として検討が始まり、地権者や近隣住民の方との協議と建設工事に2年をかけ、平成17年4月から稼働しております。

この法は、堆肥処理の管理基準が飼養頭数10頭以上となっておりまして、多頭飼養の中でも排せつ量の多い酪農組合の堆肥処理の支援の目的で建設をされました。

現在は、指定管理契約を締結しております玖珠町酪農堆肥生産利用組合が運営をしております、平成29年度は、会の構成員が6名で、おおむね乳牛で144頭、肉用牛100頭、日量で7トン程度の処理を行っております。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 現状については、よくわかりました。

平成14年ですから、もうそれこそ14年前になるんですね。当時議員であった日隈久美男さんが、本当に一生懸命頑張っていたいただいて、あの地域に地権者や近隣住民の方を説得していただき設置することができました。

あれから14年たちまして、酪農の農家の方も随分数が減少してきている。さらには、お聞きしたところ、年間に酪農家の人たちは自分たちで500万の経費を出しながら、このセンターの維持管理に努めていると。当然、10人で割り勘すれば50万ですが、酪農の数が減少するに伴い1戸当たりの負担が大変ふえてきている。この先、大変な不安を持っているというのが、一つの現状ではないかと思いません。

そこで、今言いましたように玖珠町酪農堆肥生産利用組合から非常に運営が苦しいという話がありますが、町はどのように内容や原因を分析していますか。お尋ねをしたいと思います。

○議長（河野博文君） 湯浅農林業振興課参事。

○農林業振興課参事（湯浅詩朗君） 状況を説明する前に、玖珠町有機センターの処理能力等について少し御説明をいたします。

まず、この施設の最大の処理能力は、乳牛に換算しまして625頭分、日量22トンの処理ということが最大の能力となっております。スタートするときは、そのうち500頭規模ということでスタートしました。

この組合は、構成員が9戸で処理が328頭というのが一番多い時期でございました。

ただ、この人数でありましたが、利用組合としては、処理法の施行が、酪農業を存続するためにどうしても対処しなければならない課題のため、先ほど議員も申されておりましたように、開設以来、毎年約500万円弱の赤字を乳量等に換算しながら組合員が負担をして運営してきております。

そういう状況につきましては、町としても、まず施設の使用料として、開設以来、年間110万円を基金に積んでおりましたが、困窮する運営の状況から、平成26年の指定管理契約更新時に使用料を当分の間減免することで支援をしてきました。その後、先ほど説明しましたように処理頭数が日量7トンということで、かなり1戸当たりの負担額が増加しているということが、この経営に対する負担の原因となっております。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 中身については、よくわかりました。

当初9戸で負担していたのが、その後、数が減少し、1戸当たりの負担が大変厳しくなっている。

例えば、使用料の減免についてであります、そのほかにどのような支援策を検討してきたか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（河野博文君） 湯浅農林業振興課参事。

○農林業振興課参事（湯浅詩朗君） 平成27年7月に酪農組合の意見や要望を聞こうという懇談会を開催しまして、その席で、このセンターの運営が非常に厳しいという説明を受けました。それから、町としては、どういう支援ができるか、改善ができるかということを検討してまいりましたところであります。

その中で、分析として、有機センターの支出経費につきましては、経常的な支出が多く、大幅に削減することが困難であると。収入では、製造販売している有機堆肥の販売収益を増加できる方法はないかということが、まず1点、それと、先ほど言いましたが、現在の処理量が最大能力の30%まで落ち込んでいるということですので、処理能力に対する稼働率を上げ、利用する農家の1戸当たりの負担が軽減できないかということについて、検討をしてみたいところであります。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 随分以前になりますが、平成29年の定例議会に、玖珠町酪農組合の組合長から要望書が出ています。その前には、たしか肉用牛繁殖経営農家が陳情書を出して、議会としては採択をした経過がございます。

担当課として随分頭を悩ませ、いろんな取り組みについて検討してきた旨についてもお聞きをしております。

畜産基盤強化対策について、どのように取り組んだらいいのか、何かいい方法がないかということでも苦慮していると思いますが、その陳情と酪農組合の要望書が提出された後、どのような取り組みを考えてきたかについて、お尋ねをしたいと思います。

○議長（河野博文君） 湯浅農林業振興課参事。

○農林業振興課参事（湯浅詩朗君） 議員が今言われましたとおり、肉用牛部会の陳情と酪農組合の要望が提出をされました。

まず、肉用牛部会の陳情につきましては、1番に増頭や保留への支援、また2番目に各種共進会への支援、それと3番目に畜産基盤の強化の支援、特に、これはキャトルステーション、マザーステーションとあわせて耕畜連携による循環型農業を推進する堆肥処理施設の拡充が取り上げられております。

一方、酪農組合の要望は、肉用牛部会陳情の循環型農業を推進する堆肥処理施設の拡充時に、酪農の有機センターでの堆肥処理を一本化することで、省力化とコスト削減を支援してほしいという内容になっておりました。

この2つの点につきましては、先ほどの町のほうで検討しました改善点を検討する過程で出されておりますが、検討する方向が同じでしたので、先進地視察や研修会等でその内容を精査することを進めてまいりました。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） その中で、どういうふうにしたら堆肥センターの維持管理と酪農家の人たちの負担が軽減できるか。今言われましたように、肉用牛部会の堆肥処理とあわせて酪農の堆肥処理ができるのか、できないのか。そのためにはどのような改良をしなければいけないかということについて、どういうふうな考えを持って検討してきたかについて、お尋ねしたいと思います。

堆肥処理施設を維持存続するためには、酪農と肉用牛部会が堆肥処理を一緒にやることができないのか。そうすれば負担が軽減されるわけです。

でも、負担が軽減されるためには、やっぱり両方入ってくるわけですから、堆肥センターの改善も当然これは必要となってくるというふうに思います。それに対しては、改善すればどのぐらいの予算が必要となってくるのか、そのことについて検討されたかどうかについて、お尋ねをしたいとします。

○議長（河野博文君） 湯浅農林業振興課参事。

○農林業振興課参事（湯浅詩朗君） まず、メリットと課題、また、それと経費の問題ですので、少し説明をさせていただきます。

畜産農家は堆肥の処理方法としての農地への還元と土づくりを行っておりますが、近年は耕作放棄地や気象の変更により、その散布できる農地が徐々に減少しております。特に、家畜排せつ物処理法により、多頭飼養農家ほど、その堆肥処理や設備投資が後継者の確保や増頭の足かせとなっております。

一方、堆肥を利用する耕種農家としては、米、野菜、飼料等により施肥の方法が異なるため、利用状況が変わります。

大分県は、高品質の野菜を生産する畑地転換と消費者のニーズに応える野菜づくりを流通と連携するマーケットインを推進をしております。そのために、こういう気象変動や連作障害に強い高品質野菜を生産できる堆肥の活用により他産地との競争を制し、農家所得の向上を図ることも、目指す農業の一つと言えます。

畜産の堆肥処理は、環境問題を整備し、農家の重労働を軽減することで、増頭や後継者の確保を推進します。耕種農家への堆肥の利用技術の普及と安く提供できるスケールメリットを向上させなければなりません。

そのために、開設後13年を経過した有機センターの稼働率の向上と製造システムの高品位化を検討する必要があります。

ただ、この施設は計画策定時から玖珠町有機センター管理運営委員会の設置をしております、これは利用者、地権者、周辺自治体、行政で構成されました協議会ございまして、適正な管理運営により地域農業の振興と周辺環境保全を目的にしております。農家の皆さんの協力により開設できましたし、生産利用組合の適正な管理により今日まで運営がされております。

稼働状況の効率や製造システムの変更が必要な場合は、この管理運営委員会で丁寧に説明し、諮る

必要がございます。

また、予算等につきましては、堆肥の高品質化をしながら、その販売収益により運営をしていくというふうなことを考えておりましたが、全体的な予算としては、おおむね2億円程度の事業費を検討してきたところであります。

以上です。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） キャトルステーションやマザーステーションというふうに、私たちからは日ごろ聞きなれない言葉であれですが、よく話に聞くのが、一番大変なのが堆肥処理だと。この堆肥処理を例えばバックアップすることによって、1軒当たりの農家の労働力が30%近く軽減されるというわけです。そうなれば、例えば、おじいさんとおばあさんが牛を飼っていても、一番肝心かなめな大変な堆肥処理を協力してくれると、さらに続けて増頭でもして牛を飼ってみようかというふうなことにもつながるともお聞きしました。

また、先ほど担当課長が言いましたが、今もどンドン肥料はできているわけですよ。でも、できているのが売れないというのは、言うなれば同じ肥料の中にも良質な肥料とそれなりの肥料とに分類される。良質な肥料については、きちっと販売をしているところがあるというふうにもお聞きしました。

さらには、担当課長からお聞きした件については、北九州青果やいろんなところから、玖珠町の堆肥センターでつくられる肥料の販売促進にも協力しましょう。同時に、いい肥料をつくって、いい土をつくって、いい野菜をつくりましょう。米もやっぱり土づくりが基本ですから、田んぼの中に良質な肥料を入れることによって、玖珠町の米がさらにおいしく、いい米ができれば、ブランド化をすることもできるのではないかと。

そういうふうなことに关しまして、特に大変厳しい酪農、畜産の方に対して、どういうふうに支援ができるかということに取り組む気持ちがあるかどうかについて、町長にお尋ねをしたいと思っております。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） それでは、自席から失礼いたします。

私から、答弁といいますか、見解を述べさせていただきたいと思っております。

玖珠町の主要産業の一つであります畜産業は、酪農・繁殖ともに町を代表する重要な産業であり、今後も振興していく必要があるということは、私も十分認識をしております。また、現存する有機センターの現状、課題につきましては、先ほど担当課から答弁を申し上げたとおりでございます。

年々利用組合の財政負担が拡大していることと、また一方で、繁殖農家の方々の増頭計画、基盤強化、それから労働時間の短縮に向けた環境整備に要望や陳情が出されたということも承知をしているところでございます。

このような中で、先ほど議員がおっしゃいましたように環境面に配慮した堆肥処理、それから有機堆肥の製造、有機野菜の生産を一体的に進めるために、国の補助事業、いわゆる有機堆肥の製造プラ

ント施設を設ける案が浮上している。さらに、先ほど申されました青果市場や金融機関などの協力も支援を取りつけているという状況にあるということは、担当課から説明を受けているところでございます。

しかしながら、私としましては、国庫事業を活用した堆肥製造プラントの施設整備につきましては、今回、前町長から多くの継続事業を引き継ぐ中で、平成30年度の継続事業の執行を見合わせるように担当課へ指示をした唯一の補助事業でございます。

平成30年度に執行を受けるためには、県や国への事前協議が必要であり、ことし2月中旬までにその判断を迫られていると、担当課から説明を受けましたが、町長に就任いたしました10日余りの時期に、この判断を迫られ、にわか勉強をさせていただきましたが、結果として30年度の執行計画を見送る判断に至りました。

この理由の主な内容は、事業主体が明確になっていないこと、それから利用組合の構成員であります酪農家の農家数が減少している中で、繁殖農家の方々がこの施設を利用する意向が確認できていないこと、具体的に何戸でどれだけの量が入ってくるかということが確認できていない。さらに、最大の課題は、有機野菜の有人販売について、青果市場の協力は確認できているものの、施設で製造した有機堆肥、これが確実に販売できるかという、マーケティングが明確になっていないことでありまして、さらなる赤字経営にならないか懸念をしたところでございます。

また、今回の町長選挙を通じまして、赤字経営になるような施設をこれ以上つくらぬほしいなど多くの町民の皆さんから声をいただいておりますことありまして、このような判断をさせていただきました。

このため、担当課には、繁殖農家の方々がどれだけ利用するかという意向調査をするように指示を出しましたし、事業プランの再構築を行うよう、あわせて指示をしたところでございます。

また、一方で、大分県の西部振興局の畜産担当職員の方から、県北部エリアにおきまして、広域的な堆肥処理とその堆肥の有効活用を進めたいという御提案も入っておりますので、我が玖珠町単独で多額な投資につながる堆肥処理、有機堆肥製造施設を設けることがよいのか。このような状況もございまして、判断に至りました。どうぞ御理解を賜りたいところでございます。

○議長（河野博文君） 13番繁田弘司君、残り時間5分です。

○13番（繁田弘司君） 理解できるわけがないじゃないですか。堆肥センターの充実をして、少しでも酪農と和牛の農家の堆肥処理に自治体として協力できないかというのに対して、多額な費用がかかるからといって、じゃ、どういうふうに試算したのか。例えば、国からの補助金はどうなっているのか。国・県の補助金、さらには自治体として、町長として、例えば、いろんな省庁に出向いていって補助金を獲得するというのが、私は町長の役割だと思うんです。

酪農と和牛の堆肥処理については、非常にもう逼迫をしております。そういった中で、今回について、そういうふうな処理ができないというなら、例えば、町長として、その厳しさを十分わかっているなら、さらにほかにどのような支援ができるかについて、何かお考えはありますか。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 堆肥センターの製造プラントについては、先ほど述べたとおりでございますが、当面は先ほど提案がありました県、それから関係団体との連携の中で、堆肥処理の分野と、それから発酵型の有機堆肥の販売、活用、そういった部分は切り分けて考えております。

したがって、当面逼迫する利用組合の経営に対する支援、それは今後また考えていきたいというふうに考えております。

○議 長（河野博文君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） なかなか、町長から指摘がありましたように、あれこれというような課題が残っているかと思えます。

しかし、農林業を主体として頑張りたいという町長には大変残念な答弁であります。逼迫している酪農というふうな部分については、町長、今後やっぱり十分に検討して、酪農と和牛について、堆肥処理について、新たな支援策をぜひ提示していただきたいというふうに思います。

以上、お願いをいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議 長（河野博文君） 13番繁田弘司君の質問を終わります。

次の質問者は、9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） おはようございます。9番宿利忠明です。

雪の多い長く厳しい冬も、春雷の音とともに、ようやく春の気配が感じられるようになりました。

先般、古後中学校の卒業式に出席をいたしました。校長先生の式辞の中で、花の咲かない時期は下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲くという言葉がありました。町長も4年間は下へ下へと根を伸ばす時期だったのではないかと感じております。どうか玖珠町、町民の大きな花を咲かせてほしいと期待をしております。

質問に入る前に、議長にお許しを得て、一言申し上げます。

町長には、2度の発言の訂正がありました。一般質問の答弁であります。議場での発言は重いものであります。どうか慎重な答弁をお願いいたしまして、質問に入ります。

まず、施政方針についてであります。

「地域力日本一」というまちを目指すということで、1番に上がっておりますけれども、通告では、みずからが考え行動できる力を備えるとするが、町民一人一人がそういう力を自覚することなのか、町の施策で元気な地域をつくることなのか何うということでありましたけれども、昨日からの答弁では、地区の町民一人一人が自立をした地域力を持つというような答弁だったと思えます。再度、お尋ねをいたしたいと思えます。町長の考える地域力日本一について、どういうまちなのか、お伺いいたします。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） それでは、議員の御質問にお答えを申し上げたいと思えます。

まず、先ほど注意をいただきましたように、答弁は慎重に発言させていただきたいと思えます。大

変申しわけありません。

今の質問につきまして、私が考えます地域力というのは、町民お一人お一人がみずから考え行動できる力を養ってもらうということでございまして、昨日も同じような答弁をいたしましたけれども、地域資源を備えたり、それから自治力、それから地域の関心力、これらの力を総合的に備えることによりまして、地域が抱える独自の課題を解決していく。そして、地域を組織化し、一体的に地域の活性化を図っていく。そういう漠然とした絵柄でございましてけれども、そこの住んでおられる方が、きのうも申しましたように誇りを持ってもらう。玖珠で生まれ育ち、いい人生だったと思ってくださるような、そういう気持ちを持っていただくための一つの考え方として、自立の力を地域力というふうに考えているところでございます。

したがって、常に地域に対する関心を持っていただく、可能性があるなら、さらに向上していこうという意欲を持ってもらうことによって、人生観、誇りを持っていただくというものでございます。

そのことを、一つの商品と言っては失礼なんです、アピールポイントとしまして、内外に発信をしていく。このことで玖珠町が、全国的に見まして、玖珠町はそういった地域力を備えている全国でもトップクラスのまちなんだということPRをしていく。これもあわせて地域力というふうに考えております。

以上でございます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 各個人個人がみずから考えて、町政の課題に向け力いっぱい働くというようなことが書いてありますけれども、では、現状では町民の地域力はどのようにあるとお考えでしょうか。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 自席から失礼いたします。

現状では、やはり個人の方々、それぞれの方々の夢や希望というのは誰しも持っているわけでございますが、それを具現化して実現していくという部分では、個々の力では、やはり微々たるもの、なかなかその思いを達成できないという方々が、ほとんどだろうというふうに思っています。

そこで、先ほど申しましたように、今あります自治会や自治コミュニティ協議会、そういった組織、また福祉団体、健康づくり団体、そういった部分を含めまして、その思いを形にし、達成をする。それが総合力であり、地域力であるというふうに思っておりますので、個人個人の力、その思いを形にしていく。それをまた行政が支援をしていくことだろうというふうに思っております。

以上です。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） ずっと前に、古後地区活性化委員会ということで、夢を形にという形で地域で取り組んだことがあるんです。

具体的にというか、大体こういうことかなというような思いはあるんですけども、今、町長の思いというのはわかるんですけども、公約の中には、役場内に町長直轄の玖珠町地域力日本一推進チームを設置し、リーダーシップを発揮して、各種関連団体と連携した戦略化と統一ビジョンを基軸に住民サービスの向上を目指しますというように書かれてあるんです。

そうした場合、今、町長が言われました地域力日本一の中で、この玖珠町地域力日本一推進チームというのを役場内につくって、どういう働きをするのか、お尋ねをいたします。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） チームをつくって推進をしていくという公約を前回述べさせていただきました。具体的には、新年度の中で担当係を1つ設置させてもらいたいと考えているところでございます。

従来、こういう役所におきまして、事務事業を執行する。必ず何かそういった仕事を手に持つというスタイルが非常に多かったわけですが、その係の職員は、基本的に各課を横断する連絡調整、企画調整を行ってほしいと考えております。

そういった方々には、事務事業を担当するのではなく連絡調整、もちろん役場の組織内もそうですし、関係団体や自治会、コミュニティ協議会等の連携役に走っていただく。そのことで私なり町の考え方を直結していくという意味での担当係を設置したいというふうに考えているところでございます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 施政方針に戻りますけれども、玖珠町で生まれ育ち、幸せな人生だったと実感できるようなまちを目指しますとありますけれども、具体的にどういうまちを町長としてはイメージをしているのか、お尋ねをいたします。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 生まれ育ち、いい人生だったと思ってくださるのは、町民お一人お一人でございます。その夢がかなうとか、思いがかなう、そのことが、すなわちよい人生だったと思ってくださることだと思いますので、個人や地域、そしてまた町全体が、そういう思いを形にしていく。そのためのお手伝いを町として取り組んでいくということでございますので、具体的に今この段階であれこれというような部分は持ち合わせておりません。心理的な気持ちの問題だというふうに思っております。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） これは私の思いですけども、ここで生まれて育ち、幸せな人生だった。交通の便がいいとか、買い物に便利、病院が近くにある。そして、恵まれた教育環境がある。そういう自慢できるまち、それがあれば、玖珠町に生まれてよかったと思うんじゃないかと思うんです。

そういうことで、玖珠町は地域的に広いので、今、高齢者が買い物に不便な、また病院に通うのにも非常に不便をしている。やっぱりそうした交通の利便性とか、誰でも日用品の買い物が気安くできるとか、それから病院が近い。今、中学校が建設途中ですけども、これは若干お金がかかっている

ようでありますけれども、やはりでき上がったら、大分県で一番の玖珠町にはいい中学校があるんだとか、そういうような一つの何か自慢ができるまち、これが、まちに住んでいる人が自慢できる、誇りがあるまちだと、私は考えております。そこら辺のところもひとつ配慮をして、地域力日本一のいいまちを目指してほしいと思います。

それから、2番目でございます。町内で経済が循環する仕組みづくりについてということでありませう。

これは、かねがね私も、限られた経済状況の中で、やはり今、町民の方は買い物には福岡に行く、大分に行く。いろんな意味で経済的に広域化というのが広がっておるので、町内でお金の循環、経済の循環というのはいいことだと思うんですけども、その仕組みはどういった形の仕組みをつくるのか、具体的にあれば、お伺いしたいと思います。

○議長（河野博文君） 秋好商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（秋好英信君） おはようございます。宿利議員の質問にお答えをいたします。

基本的には、基幹産業であります農林業の発展が地元の商工振興につながるような経済循環をイメージしております。

現在、特Aの認定を初め畜産やシイタケの取引価格が好調であると聞いております。また、新栄合板株式会社の玖珠工業団地への進出表明は、雇用問題や林業関係を中心に経済波及効果が期待をされているところです。これらの関連事業を含めまして、地元調達あるいは地元での消費喚起につながるように、地元での購買力を高めるように目指していきたいと考えております。

また、観光面につきましては、交流人口を増加させるように、商店街への顧客誘導を図るために、観光と食、農産物、こういったものの連携で町内消費に結びつけるために、商店街の魅力アップ事業とか人材育成等に取り組みたいというふうに考えております。

現在、一例でございますが、ミュージアムに入館された方が、チケットを持って駅前通りの商店街に行った場合に、少しお得なサービスが受けられるというのを試験的にやっております。これを少しエリアを拡大して、昭和町通り、あるいは旧森、こういったところも久留島武彦記念館と連携をとりながらやってみようということで話を進めております。

それから、あと、これは職員の発案でございましたが、現在、機関庫ミュージアム内に、どこから来られましたかというボードを設置しております。このボードには、シールを張るようになっておまして、初めて来ました、2回目です、3回目ですというような非常にシンプルなものなんですけど、九州内だけでなく関東や関西のほうから来られております。全国的に知名度が上がっている証拠かなというふうに思います。

今後、今まで聞き取りでやっておりましたが、今後は実態調査という形で、なぜ玖珠に来ましたか、どうやって知りましたか、それから昼食はどこでとりましたか、幾らぐらい消費しましたかとか、そういうちょっと細かな分析をやってみたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議 長（河野博文君） 9 番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 具体的にどういう仕組みというのはまだないということですね。私も、1つ、外出券、バス・タクシー券ですか、あれを利用して辺地から来た方には、それを出せば商店で1割のサービスとか、そこら辺も考えられないかなというふうな気はしているところでありましてけれども、それは商工会、商店街の協力が無いといけないと思いますので、やはり地域で経済が循環するという事は、そういうことも考えられるんじゃないかと思います。

あと、公約の中で、地域の経済の循環の仕組みの中に入るのは、やっぱり大手公共事業の受注が目立っておりますけれども、地元事業者の育成や作業員もありますものの、設計、発注段階の分割発注により、地元業者でも受注できる機会、それから、できる物資は地元で調達するとか、そこら辺のことも書かれているようで、そういうことも考えておられるのかどうかお尋ねをいたします。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 今、議員から御提案のありましたように、今はもう平成29年度の最後の精算といえますか、いろんな建設業、製造業の公共事業の最終的な部分が職員から決裁で回ってきておりますが、逐一これは地元の業者ですかという確認をしておりますし、町外の業者の方は、なぜこの業者と契約をしたのですかという、29年度分もそのような姿勢であります。

したがって、30年度に向けましても、同じように、地元の業者の方で対応できるものであれば、積極的に地元の方を指名していく。できないものはやむを得ませんけれども、その姿勢で引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

○議 長（河野博文君） 9 番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 工事の地元業者の発注というのは、前々からほかの議員たちも一般質問等でお願いをしていたところでありまして、ぜひこれも積極的に取り組んでもらいたいと思います。

また、地元の建設業者の方に、やはり災害のときに、いっぺんに重機を持って災害復旧に当たるのは地元の建設業者、そのためには、そういう防災の面からも地元事業者の育成というのは考えてほしいというような声も聞いておりますし、非常にこれは私たちも希望するところがございますので、ぜひとも地元事業、それから、また必要なものは地元で調達をするというような形で。若干割高にはなるかもしれませんが、それが回り回って町内での経済の循環にもつながるものだと考えております。よろしくお願いをしておきます。

あと、地域マネージャーについて、きのうから何回も質問があつてありますけれども、私の場合、町費で雇用ということでありましたので、今回は町長も給料の3割カット、職員もカットという議案が出ている中で、行財政の一環としての給与のカットの中で、新たに地域マネージャーを町費で雇うというのは整合性があるのかということをお伺いいたします。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 地域マネージャーにつきましては、昨日も他の議員さんにお答えをしてきたところがございますが、職員の給料カットとの整合性につきまして、お答えをしたいというふうに

思っております。

まず、地域マネージャーにつきましては、昨日も答弁いたしましたように、総務省が定めます集落支援員の制度を活用していきたい。そのことによって、地域の点検や課題の発見等を行っていただく。その方々には、交付税によりまして、人件費としまして約200万円が支給をされます。地域マネージャーについては、独自の課題を解決し、さらに活性化を図るために、プラスアルファの地域に応じた業務を担っていただくことが目的でございまして、その分を町費から充当させていただきたいという考え方でございます。

そこで、職員は、町民全ての皆さんに対する公共サービス向上に従事をする職員でございますので、特定の地域とか特定の課題に対する対応だけを選任するということはできません。そういう役割分担がそもそも違うというふうに思っておりますので、雇用形態も違いますし、職員の給料カットとは直接的な関連はございません。

しかしながら、一方で、地域マネージャーに対します町費負担ということがございますので、また、そういった予算等の上程をする時期が来ましたら、よろしくお願ひ申し上げたいと思っております。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 今、総務省の集落支援員制度を利用するという答弁がございましたけれども、この集落支援員制度について具体的にお教えいただきたいと思ひます。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 集落支援員の制度でございますが、総務省が平成20年にスタートさせた事業でございまして、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に、そういったノウハウを持っている、知見を有した方にお願ひをしております。

先ほど言いましたように特別交付税措置の算定の要素に入っております、お一人当たり全体で350万円の経費が国から交付をされます。その中で、人件費が約200万円ほどということになりまして、業務の内容としましては、それぞれの地域の人口とか世帯数の動向とか、また、先ほどから出ていますように通院とか買い物、それから地域の共同作業の実情、それから耕作放棄地等の実情、こういったものをまず点検していただく。そういった背景を踏まえまして、地域の中で話し合いを行う機会を設ける。そして、地域の課題と課題解決に向けた方向性を準備していただく。それ以降は、行政関係団体がその課題解決に向けて実行していくというものでございまして、点検や話し合いの機会を設ける方が集落支援員という制度でございます。

ちなみに、これは28年度の状況でございますが、全国に5,430人余りの方々が集落支援員として活動しておりまして、大分県内は8市で合計43名の方が集落支援員として活動をされているところでございます。

以上です。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 制度はわかったんでありますけれども、町ですとすれば、何人の枠がある

のか。それから、これも1年切りですか、それとも継続的に受けられるものなのか。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 集落支援員の制度につきましては、総務省からまだこれを廃止するというような情報を聞いておりませんし、平成20年度スタートですから約10年経過した。非常に全国各地で成果があらわれているということから、多分これは継続されるんだろうというふうに思っております。

それから、玖珠町内の配置につきましては、昨日答弁いたしましたけれども、選考委員会、それから基準等を設けて選考して委嘱をしていくということになりますけれども、一度に何十名の方を配置するという考え方じゃなく、必要な地域、それから、やる気のある地域から、手を上げていただき、選考していくという方法を考えております。結果として、これが1人であったり、また数十名ということもあろうかと思いますが、予算も伴う関係もございますので、おおむね町内に私としては十四、五名もしくは20名以内の中で考えております。

それは、昨日言いましたように単位が大字単位であったり、小学校区単位であったり、いろんなケースが出てこようかというふうに思っているところでございます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） この制度をかりて、地域マネージャーの役割を担ってもらおうというように理解してよろしいんですね。それで、今、人数を聞いて、びっくりしたんですけども、14人から20名のこういう地域マネージャーを配置する。これは、集落支援員としての総務省の制度を利用するので、実際は後で交付税で補填されるというので、町費は使わないという考えですか。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 先ほど人数のお話をしましたけれども、県内で28年度の43名の中で、宇佐市が15名、それから近隣では、あと日田市が5名というような状況でございまして、中には1名という市もあるようでございます。

地域の実情に応じてとか、また、さっき言いましたように地域のやる気、要望、そういったところから出てまいりますので、結果として、お一人であったり、十数名になるかとは思いますが、総務省が定義をしています集落支援員の仕事をまずやった上で、その上のプラスアルファの部分の経費を町費として充当させていただきたいと考えているところでございますので、まずは、この集落支援員の定義をクリアできるかどうか、そこが第一関門になると思います。

プラスアルファの部分についての町費負担という考え方でお願いをしたいと思っております。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 先ほど、この集落支援員については年間200万円から350万、人件費が200万。あとの150万円というのは。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） これは、今、地域おこし協力隊の制度が同じようにはありますが、その活動を支援するための、例えばパソコンを購入したりとか車をリースしたりというようなことでございます。

ので、人件費、賃金、報酬に係る部分については、先ほど言いましたように200万ということでございます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 集落支援員制度を使って、これが即地域マネージャー制度と兼任できるのかなという、国の制度ですね。今、先ほどの集落支援員の仕事としては、集落の点検、それから、その結果を話し合って、その集落の課題を見つけて、解決に当たるというような、それとこの地域マネージャー制度というのは、見る限りでは似たようなものかなとは思いますが、やっぱりマネージャーとしての役割は、少し重要な役を持たせるんじゃないかなろうかというような解釈をしているところでもあります。総務省の集落支援員としてお願いをして、その方に少し町費で上乗せをして、地域マネージャーとして、また兼任になるわけですね。そういう形が本当にとられるのかどうか、お伺いします。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） 御心配をいただいた部分でございますけれども、集落支援員は、先ほど申しましたように地域の点検や課題の拾い上げと、それを具体的に実行、具現化する。例えば、我が地域は特産品をつくって売り出していこうというような場合ですと、その事業を本当に実行していく、そういう部分を地域マネージャーがリードをしていただくという部分だろうというふうに思っています。

あと、総務省の見解でございますけれども、昨年、町長選に立候補するに当たりまして、ちょうど公約を考えていた時期に、この集落支援員の制度を活用していいかどうかということは、実は大分県庁を通じまして総務省のほうに確認をさせていただきました。総務省の見解は、集落支援員としての定義をクリアしておれば、それに町費単独で上乗せをして活動してもらっても構いませんと。なおかつ、集落支援員という名前を使わずに、例えば地域マネージャーでよろしいでしょうかということまでお諮りをしましたら、一向に構わないということはまだ今年の公約を準備する段階で確認をさせていただいておるものでございます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 安心をしたところでございます。

それにしても、やっぱり十二、三人というのはちょっと多いかなという気はしております。そこら辺は再度検討していただきたいと思っております。

施政方針と公約が入りまじってしまっているのですが、いろいろあれしておりますけれども、今回は公約についてであります。

6次産業ブランド推進協議会について何うということで、まず6次産業の定義です。わからない方も、聞きなれない産業だなという方もおろうと思うので、まず6次産業について説明をお願いしたいと思います。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 御質問のありました6次産業についてのことでございますが、いわゆる生産部門を1次、加工部門が2次、販売・流通が3次ということで、それを全て一体的に行うことが、いわゆる6次ということで、従前は1プラス2プラス3ということで6次というふうな表現もございましたが、昨今は掛け算、1掛け2掛け3、どれか1つ欠けても6次にならずにゼロになるんだという考え方が最近の主流でございまして、この1次、2次、3次を一体的に構築をするというものでございます。

一言に6次産業といっても、いろいろ実施主体によってスタイルがあるかというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） それで、6次産業ブランドの推進協議会、きのうの答弁でも、豊後玖珠牛のブランド、たしか推進協議会というのがあったと思っておりますけれども、この推進協議会、具体的にどのような形で協議会をつくっていくのか、今、町長の考えているところをお答え願いたいと思います。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 先ほど、一言に6次産業といいますが、いろんなスタイルがあるということをお申しましたが、つまり従事される方々の組み合わせで支援や推進方法に違いがあるのかなというふうに思っております、それぞれの主体ごとにきめ細かな対策が必要ではないかと考えております。

例の一つとしまして、例えば梅干しやみそ、漬物、お菓子というふうに、町内でも個人が生産、製造、販売されている方もおられますけれども、玖珠、九重両町でそういった生産者で構成しますこだまネットというグループがございまして、ここの方々、それぞれで加工品、特産品を製造しまして、有利に販売するために、3次であります販売流通の部分を共同化して有利販売につなげている状況もございまして。

また、立羽田や宇戸、それから、きじ車の里などのように、付加価値を高めながら一貫した製造から販売までされているグループ活動もございまして。

また、道の駅の店頭販売とか農協の直販としまして福岡方面への組織的な販売体制を持っているスタイルもございまして。

これらの総合的な促進に向けて、玖珠町の顔となりますブランド構築を進める組織は必要だというふうに思われます。まずは、それぞれのスタイルを持たれる方々、生産、6次産業まで到達している方々も含めまして、関係団体と連携しながら、この推進協議会の設立に向けて、まずは話し合いから始めていきたいというふうに考えているところでございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） これは業者が主体で協議会を立ち上げるということによろしいですか。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 事務局をどこが持っていただくかというようなこともあろうかと思うんですが、基本的には、やはり主体的に一番大きなJAさんをベースに、個人の生産、製造されている方も含めて、いわゆる玖珠というキーワード、言葉売りにできるような共通のいわゆるネーミング、そういった部分も含めて、協議会の中で取り組んでいく。

基本的には、それぞれの企業なり個人なりが製造や販売に携わっていただくわけですが、いわゆる統一ブランド的な部分で連携できるものがあるのではないかなと考えているところでございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 今、JAを中心にした協議会ということであります。じゃ、行政はどの部分を担うんですか。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） まずは組織化をすることの呼びかけに始まりまして、私の構想ではございますが、内外へのいわゆる宣伝、PR、こういったところは、やはり行政が担う部分だというふうに思っています。

したがって、販売や流通については、それぞれの専門的な組織になるのではないかなというふうに考えてございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 今ある6次産業を実際やっている方、いろんな意味で、商品というか、製品ができていますけれども、それが今言う各個人個人とかで、玖珠のブランドというのはちょっとまだ価値観がないのかなという感じがして、そうした中で、行政が玖珠の特産品ブランドという形で、何か例えば今、佐賀関のほうの関さばとか関あじとかいうのは、シールをつくって、ブランド化。例えば、行政がこれを玖珠町で自慢ができるんだ、玖珠の特産品だ、ブランドだという形で、行政的に何か玖珠のネーミングをつけたシールとか、そういう考えはありますか。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 御提案を受けまして、ありがとうございます。

やはり統一ブランドという考え方がある以上、ネーミングとか、また包装とか、シールとか、そういったものはやはり共通のものを準備する必要があるかと思っています。

先ほど行政の支援というお話もありまして、1点ちょっと申し忘れましたけれども、昨日の質問と同じになりますが、そういった販売促進に向けたバイヤー的な担当業務をしてもらい職員を設けたいというところは、きのう答弁したところでございます。

近隣の市町村の中では、日田市さんが農業振興課の中に1人専属の職員がデパートへの販売促進活動を行ったり、もうほとんど事務事業を持たずに、そういった販売促進、PRをやっている職員がおりまして、その例に見習って、日田市さんほどではないかと思いますが、それに近い形で職員体制をとっていくことも考えているところでございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） また新しい言葉が出たので。きのう確かにバイヤーという言葉、要はこの特産品の売り込みに専任する職員を1名置くということですか。

○議 長（河野博文君） 宿利町長。

○町 長（宿利政和君） 非常に職員数も少ないことですので、それに特化した職員配置は非常に厳しいかと思うんですが、そのPR、宣伝、販売戦略等を考える担当職員、そのことをなるべく強化できるような体制はつくっていかうと思います。

その人一人がイコールこれに全て従事するというものではございません。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） いや、昔、役場に机のない観光大使とかいうような役割の1人とかがあったと思うんですけども、そういう形で、例えばデパート回りとか、市場回りとか、常に珍珠の産物を売り込む専任というわけではなくて、そういうことを主体として兼任をしてもらおうという形でのよいですね。

次に入ります。

元気な商店街づくりについてということで、ここに書かれているように、テーマパーク的な取り組みを検討したいと公約の中に書かれております。非常におもしろい発想だなという感じはしておりますけれども、テーマパーク的な取り組み、どういう考えなのか、お伺いをいたします。

○議 長（河野博文君） 秋好商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（秋好英信君） 質問にお答えをいたします。

昨日の中尾議員や先ほどの答弁と少し重複する点があるかもしれませんが、基本的には商店への顧客誘導を図る企画や個店の魅力アップにつながるような人材育成、元気な商店街づくりというのが基本になろうかと思えます。

例えば、平日は地元町民の消費が中心となっておりますので、土曜日、日曜日、祭日などは、機関庫公園をイメージ、あるいは童話の里をイメージした企画、それから観光客に対する仕掛け、各店舗ごとに創意工夫された商品化を目指すような取り組みを想像しております。

まずは、7月に久大線の復旧がございまして、今議会でも予算計上しておりますが、JR久大線の復旧関連の事業、こういったものを起爆剤としながら、少し活性化のほうに取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 今、非常に空き店舗等が目立って、何とか商店街に元気をということで、いろいろと工夫をされているんだろうと思いますけれども、何よりもこれはもう商店一人一人の協力とか、理解がないと、なかなかできないことだろうと思うし、そこら辺の取り組みと、1つは、空き店舗ですね。せっかくテーマパークとして、人の流れの中で点々と空き店舗があれば、こういう所期の目的がちょっと雰囲気的に違うのかなと思うので、そういう企画をしたときに、空き店舗を1年

だけでもどなたかにあけていただくとか、町民に何か売る人があれば無償で貸し付けをして店舗をあけるとか、そういうような考え方はありますか。

○議長（河野博文君） 秋好商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（秋好英信君） 空き店舗等を含めた対策でございますが、昨日でしたか、創業支援の関係で御説明いたしました。現在、新たに創業される方、空き店舗に特化したわけではないんですが、創業を含めて、空き店舗を利用しながら何かをやってみたいという方に対しての支援事業を用意しておりますので、そういったものを活用していただければなというふうには思います。

それから、今議会で提案しております玖珠町中小企業・小規模事業者振興基本条例で具体的に計画策定を行ってまいりたいと思います。

その中で、駅前通り、塚脇、旧森を含めた商店街の方と、どういったことにチャレンジしようかとか、そういったことも協議してまいりたいと思います。

それから、大分県のほうが新年度の事業として、がんばる商店街支援事業というものを用意しているようでございますので、そういったものを情報提供しながら、一緒に頑張っていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 長期的な展望では、それでいいと思うんですけども、私が今お尋ねしたのは、こういうテーマパーク的な取り組み、1日限定の企画を商店街で催したとき、やっぱり空き店舗が点々とあれば、やっぱりイメージ的に。その1日限り、例えば、個人的にフリーマーケットというんですか、そういう方に貸し出しをして、通りを埋めるとか、一体化したテーマパーク的な取り組みとはそういうことじゃないかなと思うんですけども、そういうような考えがあるのかどうかお尋ねいたします。

○議長（河野博文君） 宿利町長。

○町長（宿利政和君） テーマパークのこともございますので、私からお答えをさせていただきたいと思っております。

先ほど担当課長が申しましたテーマパークのイメージでございますが、平日は、地元町民の皆さんへの商売、それから土日祭日につきましては、交流人口をふやして観光客の方に楽しんでいただけるような取り組みというふうに考えています。

これができるかどうかというのは、お相手があることですからわかりませんが、例えば、皆さんも御存じのとおり、豊後高田市の昭和の町は、昭和というキーワードをテーマにして、ああいうふうなまちづくりをしておりますように、機関庫、列車、それから童話の里、いわゆるおとぎ話とか、そういった部分をイメージするようなおもてなしができないか。

1つ例としまして、5月5日の童話祭のときに、皆さんが仮装して、いろんな童話の扮装をするんですけども、通常でも土日、祭日には、格好を着がえてあそこを歩くだけでもイメージが違います。

ので、そういったパフォーマンスができないかどうかとか、また、それぞれの個店の魅力アップのために、ショーウィンドーには自慢のものを展示をしたりとか、また、それぞれの職業に合ったサービスができないかというようなことも含めて、テーマパーク化を目指したいというふうに考えています。

いずれにしても、今、私と課のほうで考えている内容でございますので、商工会のとりわけ青年部の方々、それから商店街の役員の方々にも理解をいただいて、協力していただけるかどうかということは今後すり合わせをしていきたいと思っています。

先ほど町議が申されました空き店舗についても、そういった部分で1日フリーマーケットとして、お店を開きたいという方の中にはおられると思いますので、積極的にその辺は働きかけをしていきたいと思っています。

必要経費等について、家賃をどうするかとか、そういったものについては、また協議の中で詰めさせていただきますと考えております。

以上でございます。

○議 長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9 番（宿利忠明君） 何かを起こさなければ、今のままで低迷しているんでというので、非常におもしろい発想という失礼でありますけれども、活性化に向けて、ぜひ商店街の皆さんと理解をしながら、やっぱりこうした取り組みが今必要だろうと思います。テレビ、新聞等で話題の提供という意味では、それこそ、最初に戻りますけれども、例えばテレビに出たり、新聞に出たりして、ああ、玖珠町はいいなという、やっぱり住んでいる方が、いいニュースですよ、玖珠町でいいニュースが出れば非常に元気が出るということであります。ぜひ実現に向けてしっかりやってほしいと思っています。

最後の質問になります。福岡市南区「長住地区」とのパートナー協定について伺うということになります。

公約で見ますと、相互に住民の顔が見える会員制方式による交流人口、パートナー協定を結んで、これは長住に住んでいる方から年間幾らかの会費をいただいて、玖珠町に遊びに来てもらったりとか、玖珠町のお土産を年2回送るとか、そういうような考えでしょうか。具体的に、どういう協定で、どういう考えがあるのか、お伺いいたします。

○議 長（河野博文君） 衛藤総合戦略室長。

○まちづくり推進課総合戦略室長（衛藤 正君） 宿利議員さん、今、具体的に申されましたけれども、現状をちょっとまず説明させていただきたいと思います。

福岡市南区長住地区との交流は、ふるさとキャラバン隊を中心としまして現在も続いております。

きっかけとなりましたのが、平成3年の台風19号による未曾有の森林被害を受け、玖珠町を流れる玖珠川の下流域である都市圏の人たちに水源涵養林としての森林の大切さを知ってもらうとともに都市と農村の交流を目的として、平成4年4月29日、当時はまだみどりの日でしたが、現在昭和の日となっています。4月に福岡市において森林の重要性を訴えるイベントを開催したことによるもので

ざいます。

その後、平成5年から毎年夏に開催されます長住まつりに玖珠町から、ふるさとキャラバン隊、また玖珠町町長初め町職員や現在ではJ A玖珠九重も参加しております。

パートナー協定につきましては、平成9年に長住地区で構成する玖珠長住交流実行委員会とふるさとキャラバン隊実行委員会で、相互の地域がそれぞれ光り輝く住みたいまちとなるべく、交流の継続、充実を図るという目的で、友好交流調印を交わしております。

玖珠町としての協定は現在ございませんが、ふるさとキャラバン隊と連携して職員も積極的に長住フェアや長住まつりに参加するとともに、長住からは毎年大型バスを貸し切って玖珠九重農業祭へのバスハイクが実施されております。また、J Aによる直販としまして西鉄ストア長住店への積極販売も行っているなど、官民挙げての交流が強化されております。

このような観点から、玖珠町として、今後、福岡市南区との協定の締結に向けた提案をしていきたいと考えております。その中で、先ほど言った会員制とかいう部分についても協議をしていくようなことになろうと思っております。

以上です。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君。

○9番（宿利忠明君） 長住地区との交流については、今、町長もおられますけれども、これは平成3年の台風で山の被害があって、今言うキャラバン隊が倒れた切り株を持って行って交流して、実は私の高戸に植林に見えて、キャラバンで、それで当時はトイレがないというて、古後小学校をトイレ休憩という形で借りて、そこから長住との学校ぐるみの交流が始まって、古後小学校の子供たちが今言った夏祭りにおみこしを持って行って交流したという記憶があるんですけども、そうした中で、私にとっても非常に親しみやすい地域でありますので、今言うことは、会費制とかになった場合、この会費は誰が取るのかとか。役場が取るのか、それとも今言うキャラバン隊の皆さんとの協定の中でのこれは今から検討するということでもあります。

ぜひ、こうした交流は、都市との交流をふやすということでは、非常にまた親しみやすい地域でありますので、進めていただきたいと、このように思っております。

あと、1つは、機関車を志免町からいただいて、その後、志免町との交流が始まったと思っておりますけれども、現在、志免町との交流はどのようにしているのかお伺いいたします。

○議長（河野博文君） 衛藤総合戦略室長。

○まちづくり推進課総合戦略室長（衛藤 正君） 志免町との交流につきましては、今議員さんも言われましたとおり、同町が所有していたS Lが平成27年6月に豊後森機関庫公園に設置されたことをきっかけとして交流が始まっております。

毎年秋に開催されます志免町文化祭のほうに、これも、ふるさとキャラバン隊を中心に椎茸農協久大地区連合会、四日市再生協議会、また玖珠町役場職員等が文化祭に参加しております。

また、商工観光振興課が志免町にイベント情報等を伝えることにより、昨年度は志免町の婦人団体

の方々のバスツアー企画や、今年度は自治委員代表の方々が視察に玖珠町に訪れていただきまして、いずれも三日月の滝公園を利用していただいております。

志免町の交流は、まだ年数も浅いため、今後も地域間交流促進事業として、うちが持っています補助金を交付しながら、ふるさとキャラバン隊を中心に民間主導で交流を実施していただき、玖珠町としても、さらなるPR等を行い、移住・定住や交流人口の増加につなげてまいりたいと思っております。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君、残り時間5分です。

○9番（宿利忠明君） もう時間がなくなりましたが、実は機関車をもらいに行ったときに、当時の町長さんと、あそこは日本一人口密度が高いまちであって、農地も少ない。私たちが今、北九州市の子供たち、農村民泊教育の受け入れという形で、そういう話をしたら、ぜひうちの子供たちもそういう体験をさせたいという話が出ておったんですけども、残念ながら町長さんがおかわりになりましたので、そのままになっております。また、再度、そうした方面でも町が申し込むとかしていただくとありがたいかなと思っております。

以上、非常に前向きな取り組みだろうと思っておりますので、ぜひ今後とも町長の活躍を期待して、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（河野博文君） 9番宿利忠明君の質問を終わります。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

お諮りします。

あす15日は、議案考察のため休会といたしたいと思いますが、異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（河野博文君） 異議なしと認めます。

よって、あす15日は議案考察のため休会、16日は閉会日となります。

本日はこれにて散会いたします。

御協力ありがとうございました。

午前11時58分 散会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成30年3月14日

玖珠町議会議長 河野博文

署名議員 中川英則

署 名 議 員 石 井 龍 文